



北條正庸
HOJO MASATSUNE

風の旅

2/8^{SUN} → 3/29^{SUN}
2026

開館時間 | 9:30-17:00[入館は16:30まで] 休館日 | 毎週月曜日[2月23日は開館]、2月24日(火) 主催 | 宇都宮美術館、下野新聞社

観覧料 | 一般1,000(800)円、大学生・高校生800(640)円、中学生・小学生600(480)円 ※()内は20名以上の団体割引料金

※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者(1名)は無料。 ※宇都宮市在学または在住の高校生以下は無料。宮っ子の鑑いカードまたは学生証をご提示ください。
※毎月第3日曜日(2月15日、3月15日)は「家庭の日」です。高校生以下の方を含むご家族が来館された場合、企画観覧料が一般・大学生は半額、高校生以下は無料となります。

 宇都宮美術館
Utsunomiya Museum of Art

《風の旅》1986年 帯根 尹ノ湖 成川美術館蔵



1



2

本展は故郷の宇都宮でたゆまぬ制作活動をつづけてきた画家北條正庸(1948年～)の大規模な個展です。作新学院高等部時代、地元の画家齋藤富蔵との出会いをきっかけに絵画の道を志しました。進学した武蔵野美術大学では麻田鷹司や毛利武彦に日本画を学び、在学中から早くも新制作日本画展で入選を果たし頭角をあらわします。その後は1974年に結成された日本画団体「創画会」を中心に作品を発表していきます。1988年の第15回展で創画賞を初受賞し、1995年には同会会員に推荐されます。また長年にわたり多摩美術大学などで教鞭をとり、後進の指導にも尽力しました。

北條は「日本画」という伝統的な技法を軸に据えつつも、画風は時代を追うごとに自在に変化をみせています。あざやかな青を基調にした幻想風景、異国を想わせる街角で遊ぶ少女、異なる時空が描かれた無数の矩形など、さまざまな表現を展開しました。

また、それらの画題には「風」という言葉がたびたび用いられており、どの時代においても鳥や空といった風を連想させるモチーフも多く登場します。

〈目には見えず、たえず流れ移りゆきながらも、たしかに感じられるもの〉

半世紀以上にわたる制作活動を通じてたえずこの画家の心を捉えていた“風”あるいはそのイメージとはいかなるものだったか?代表作と新作を含むおよそ100点の作品の展観によって迫ります。



3

【関連事業】

アーティスト・トーク

- 講師/北條正庸氏
- 日時/2月21日(土)、2月28日(土)、3月28日(土) 各回午後2時～

※企画展チケットをお求めのうえ、中央ホールにお集まりください。

ワークショップ「光る鳥をつくらう」

布と針金をつかって、鳥のオーナメントをつくれます。日本画の代表的な技法「箔押し」も体験できます。

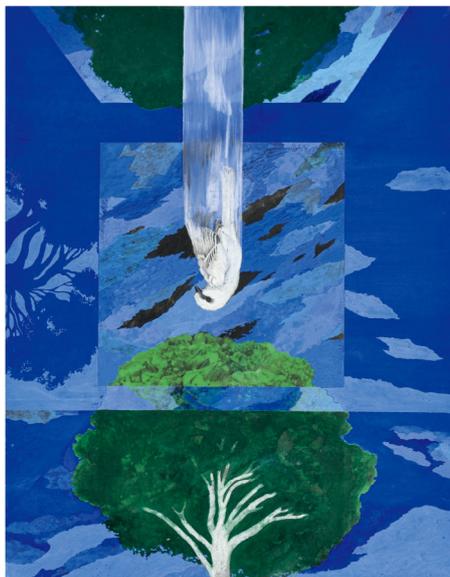
- 講師/北條正庸氏
- 日時/3月7日(土)、8日(日) 各回午後2時～午後4時
- 参加費/500円(保険代含) ※別途、企画展チケットが必要。
- 会場/中央ホール
- 申込方法/事前申込制(各回定員/10名)

右記オンライン専用フォームにてご応募いただくか、郵便ハガキにて「宇都宮美術館 北條正庸展 ワークショップ係」宛で、①参加希望日、②氏名(参加者全員分)、③住所、④電話番号、⑤参加人数を明記のうえ、お申込みください。定員を超えた場合は抽選。当落に関わらず、結果は美術館からご連絡いたします。

■申込期限/2月18日(水)必着



オンライン専用フォーム



4



5

- 1 《風景との会話》1989年 株式会社ヤマタネ蔵
- 2 《去り行く夏の想い》2018年 作家蔵
- 3 《アンリエットの回想—微風の中に》1982年 作家蔵
- 4 《空しい記憶》1976年 作家蔵
- 5 《颯風に寄す》2018年 作家蔵

宇都宮美術館
Utsunomiya Museum of Art

〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町1077番地
TEL.028-643-0100[代]/FAX.028-643-0895
ホームページ:アドレス <http://u-moa.jp>



@utsunomiya_moa



宇都宮美術館HP

【栃木県立美術館のご案内】

僕はなに色 渡辺豊重展—いる、かたち、ひかりの冒険

2026年 1月10日(土)～3月22日(日)

*詳細は栃木県立美術館へお問い合わせください。Tel.028-621-3566

担当学芸員によるギャラリー・トーク

- 日時/3月14日(土)、21日(土) 各回午後2時～

※企画展チケットをお求めのうえ、中央ホールにお集まりください。